

行政への働きかけ

◆和臼干潟を「ラムサール条約登録地」にするための行政への働きかけ

和臼干潟を守る会は、和臼干潟の環境を守るために様々な活動を行っていますが、市民の保全活動だけでは自然を守っていくことはできません。1994年に博多湾東部、和臼干潟沖に401haの人工島建設が始まったことにより、和臼干潟は大きなダメージを受けました。福岡市の方針によって、開発や改変などでこれ以上和臼干潟を傷めることがないように、水鳥の保護と湿地の保全を定めた国際条約「ラムサール条約」の登録地となるよう求めてきました。条約登録には地元自治体の申請手続きが必要で、福岡市の行政、議会の環境保護への意識が高まるよう、市民として意見や要望を出していこうと活動方針に定めています。

2007年「博多湾・和臼干潟保全のための提案」、2010年「博多湾・和臼干潟保全のための提案」、2012年「博多湾・和臼干潟のラムサール条約登録についての要望書」、2013年「和臼干潟のラムサール条約登録の早期実現を求める要望書」(JAWAN総会での決議とともに)、2015年1月「和臼干潟のラムサール条約登録を求める要望書」(9,723名分の署名添付)を福岡市長に提出しました。さらに、2017年3月「博多湾・和臼干潟のラムサール条約登録の早期実現を求める請願書」(5,134名分の署名添付)を福岡市議会に提出しましたが、「継続審査」となりました。2023年7月には「博多湾・和臼干潟のラムサール条約登録」を求める要望書を福岡市長に提出し、8月に福岡市長から回答が送ってききましたが回答にならない内容でした。9月には再度要望書を出し、10月に回答を貰いました。(★別紙参照)

環境省に対しても2015年「和臼干潟のラムサール条約登録を求める要望書」(9,558名分の署名添付)を提出し、2016年にも「和臼干潟のラムサール条約登録を求める要望書」を提出しました。◆その他公共事業、環境保護政策に関連する要望 2005年「塩浜地区護岸工事に関する要望書」、2006年「人工島野鳥公園基本構想の人工干潟造成計画撤回を求める要望書」、「和臼干潟の重機による耕耘の中止を求める要望書」を福岡市長に提出しました。これらの取り組みの結果、福岡市による和臼干潟周辺の工事に関しては、市が事業者とともに事前に説明に来て留意点などについて守る会と協議の場を設けることが通例になりました。また、行政の環境に関する様々な意見募集などの情報収集と監視を怠らず、「生物多様性ふくおか戦略」「環境教育・学習指針」の作成などの意見書提出の取り組みも行い、施策に反映しています。

また毎年和臼干潟まつりでは「和臼干潟のラムサール宣言」を出して、環境大臣や福岡県知事、福岡市長に送っています。

◆行政との連携 福岡市港湾空港局と和臼干潟に係る環境保護団体でつくる「和臼干潟保全のつどい」で月1回、情報交換をし、イベント「和臼干潟の生きものやハマボウを見る会」「アオサのお掃除大作戦」「バードウォッチング」も定着し、市民参加も増えてきました。アオサに関して啓発の冊子を作成し、アオサ回収への参加者も増えてきました。

プラスチックゴミについて

和臼干潟沿岸にも大量のプラスチックゴミが流れ着いています。私たちにできること1. ゴミを減らすためにマイバッグ、マイボトルを持ち歩こう。使い捨てのものを利用しないこと。2. ゴミを拾おう！3. プラスチックゴミの問題を人に伝えよう。クリーン作戦に参加しよう。

★和臼干潟を守る会は毎年秋に国際ビーチクリーンアップに参加して、ゴミデータ調査をしています。和臼干潟沿岸の人工ゴミを45分間集めて、31種類に分類して集計します。今年9/23の調査では「ペットボトル」が1番多く、「飲料缶」が2番目でした。ゴミの分類については、九州産業大学宗像ゼミの学生の皆さんにご協力して頂いています。